



みんなでかざる花の巨大ドリームキャッチャー

新潟市

花育の日



食育・花育センターでも花育の日を記念して様々なイベントを開催しました。



プリンセスブーケ作り



マクラメ編みでステキに緑をつるそう



新潟市の花育に尽力して下さっている花育マスターを定期的にご紹介していきます。

花育の人 vol.1

新潟市花育マスター
食育・花育センター庭木講座講師
神田 松太郎

食育・花育センターで、年6回開催する庭木講座の講師を務める神田松太郎氏。南区で大正初期から三代続く神田造園の代表でもある。現在、南区役所の樹木は神田造園が管理しているほか、県外の仕事に出向くこともあるなど、活躍の場は多岐にわたる。

常に、「違うやり方があったのでは」と己を疑いながら庭木に向かい続けている。地理的な環境、地質、その年の天候、樹木の特性や健康状態など様々な要因で状況が変化するため、「同じ仕事は二度とない」と肌で感じている。数か月先から年単位の将来まで予測して仕事をするのは当然だ。庭師として、基本や自然から学び、新潟の気候・積雪などを考慮し、新潟風の樹木の剪定を心掛けている。

庭木講座の中で、受講者に繰り返し伝えていることがある。「枝が扇子の骨組みのように広がる形を意識して」と、「枝を切り詰めると、下芽や脇芽の下枝を生かして剪定する」ということのでふたつ。常緑樹、落葉樹で時期や手法が異なる場合もあるが、このふたつの基本は、講座内の神田氏のデモンストレーションで間近に見ることができる。講座中は平易な表現でわかりやすく、時におもしろおかしく冗談を交えながら語る神田氏だが、剪定のデモになると一気に呼吸が深くなり、自身を「鳴かないセミ」と表現する。本心は、多くを語るより実際の作業を見せて教えたい。大勢を目の前にしての座学は、実は大の苦手なのである。

それでも、自分の仕事に自信が持てるようになったのは、この道に入って40数年もたった最近であるという。人に教えることが増えてきたことで、自分の仕事を再認識するきっかけのひとつになっているそうだ。

平成27年度で食育・花育センターでの庭木講座の延べ受講者数は約600人となり、一番人気が高い講座になっている理由のひとつとして、神田氏の「語りすぎない魅力」にあるのかもしれない。

市内の花小売店での「花育の日」PR

「花育の日」は4月19日と10月19日、「花育月間」は4月と10月です。

10/19の花育の日に合わせ、10/17(土)・18(日)の2日間、協力小売店にて500円以上お買い上げ先着合計1,500人にチューリップの球根をプレゼントしました。今年度から制定された「花育の日」の認知度はまだまだ低い様子でしたが、今後も継続して花育の日をPRしていきます。また、ご協力いただいた関係者の方々に深く感謝いたします。

協力小売店のアンケートより

新潟市内57店舗にてPRを行いました。

- ・球根はあっという間になくなりました。数を増やしてください。
- ・花育の日を知っている方はいないような感じでした。さらに周知させるために継続して取り組む必要があると感じました。
- ・とても喜ばれました。花育の日のチラシもたくさん手にとっていただけました。
- ・花育ということでもう少し若い年代層へのアピールをしたい。今後そのようなことも含め意見交換などができたらいいと思います。



庭木講座とは

平成27年度は4/16、5/21、6/18、7/16、9/17、10/15の計6回実施、合計597人が受講しました。

新潟で庭木としてよく植えられている樹木を中心に、季節に応じた手入れを座学形式で90分間学びます。基本的には初心者向けの講座ですので、まったくわからない方でも気軽に学ぶことができます。連続講座ではありませんので、ご都合の良い時だけ応募することができます。来年度も開催予定ですので、どうぞ気負わずにご参加ください。参加無料です。

受講者のアンケートより

- ・実技を交えての話が大変良い。とくにゆっくり話してくれるのでわかりやすい。自分の庭にもいかせます。家に帰って講座を思い出しながら庭仕事を頑張っています。
- ・デモが最高に素晴らしい。
- ・剪定が見事で美しい。剪定の重要性を感じます。
- ・新潟にあった剪定は本には載っていないのでとても参考になります。
- ・画像を使い、素人にもわかり易い語り口で理解しやすく助かります。

